



E 4 1 1

平成20年10月20日

国土交通省

道路局長 殿

長野県生坂村

村長 藤 澤 泰 彦



今後の道路行政についての意見・提案について
(回答)

日頃は道路行政について対応いただき、心より感謝申し上げます。
先般は、国会において「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定されましたが、地方の道路事情はまだ整備が遅れています。中山間地域の生活安定のため、今一度事業の評価をお願いし、要望をお聞きいただきますよう意見・提案を提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県生坂村

当村の様な中山間地域では、都市と地方の格差是正、安心、安全な生活の確保、地域経済力の向上、子育て支援、教育、福祉等のために、まだまだ道路整備が必要です。

当村では公共交通機関が、村営バス路線や近隣市町が運営しているバスがあり、これを維持するためにも道路の維持整備が欠かせません。国道19号線や、県道4路線が村内での幹線道路となっていていますが、国道は大雨が降ると閉鎖され、県道も2車線化がされていないため災害時には孤立する集落が何カ所もある状況です。

中山間地域では、生活に密着した道路の整備が急務であり、医療機関は特にほとんどの村民が村外に通院しているため、住民が安心して生活できる必要不可欠なものとなっています。

少子高齢化、過疎化が進む中、若者が定住するためには、安全な道路が確保され車での通勤・通学ができることが条件になっています。中山間地域の自治体を過疎化から救うためには、道路特定財源を地方に配分して、地方にあった道路整備をさせていただくことが、選択と集中による事業の遂行につながるかと考えます。

道路特定財源は、道路整備等のために使う目的税であると考えますが、一般財源化が決まってしまうので、選択と集中で真に必要な道路整備はしていただけたらということでありますので、地方の現状を各出先機関が中心に調査、把握をしていただき、道路整備を推進していただきたい。

長野県は、地形が起伏に富んでおり、地盤も脆弱なところも多く、道路の整備工事、新設工事などはコスト的に割高になってしまふと考えますが、用地補償は都市部に比べ少額で済むとも考えます。平野部より整備が遅れている中山間地域の道路整備を重要視していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

② - 1 地域の現状と抱える課題

長野県生坂村

○現状 国道は、犀川に沿って国道 19 号線が通っていますが、大雨の時には閉鎖され、軟弱な地形であることから、落石や土砂崩れで通行止めになることがあります。 県道は 2 車線化されていないため、大型車は対面通行ができないことと、大型観光バスは通行できないところもあります。 生活道路の役割が高い村道も各所で維持整備をしなくてはなりません、毎年の要望に応えられない状況です。 村内各地から高速道路網へのアクセスに 30 分以上掛かるところがあり、緊急医療体制、危機管理の面からも充実しているとは言いがたい。	○課題 地盤が脆弱なため、トンネル化の必要な箇所があります。地方の財政も厳しいため、現状を維持するのが精一杯であり、新しく橋梁やトンネルの建設は困難であります。 県も選択と集中で県道整備を進めていただいておりますが、要望には応えられない状況であり、村も村道整備の要望に応えられていない状況であります。その点を考慮していただき、国からの補助枠の拡大と補助率アップはできないものではないでしょうか。 高速道路網へのアクセスの時間短縮は、幹線道路の整備が必要不可欠です。松本糸魚川連絡道路の早期開通と豊科北 I C (仮称) へのアクセス道路の建設を望みます。
---	---

今後の道路行政についての意見・提案

② ー 2 地域の目指すべき将来像

長野県生坂村

村民が安心して生活できるためには、特に移動手段として自動車を利用する地方の方が、道路の整備が不可欠となっており、過疎の村には安心、安全で通行できる道路の確保、日常の生活を支える幹線道路の整備は、最大の福祉につながると思います。

国道19号線は、減災、防災の点から調査設計を進めていただいておりますが、今後も落石や崖崩れ等の危険区域の解消に努めていただき、通行止めのない国道整備をお願いしたい。

村の経済の活性化のため、就労の場の確保等にも、高速道路のインターチェンジまで、せめて30分以内にアクセス出来なければと考えます。その点からも、松本広域連合9市町村の中で、庁舎からインターチェンジまで一番遠い当村は、今回の長野県が示した松本糸魚川連絡道路のルート案の長野道から分岐する豊科北IC（仮称）から国道19号線にアクセス出来る様にしていただきたい。

国土保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、食糧自給率の向上、遊休荒廃地の減少などのために、農山村は大きな役割を担っていると考えます。その農山村を維持していくために道路網の整備は、国の大変重要な事業であると考えます。

CO₂排出削減のためにバイオマス燃料や電気自動車、水素自動車などの開発にも力を注いでいただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項

長野県生坂村

○重点事項	○ 代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・交通の安全性、利便性の向上 ・福祉、医療、教育の向上	○ 代表事例 高速道路のインターチェンジまで、せめて30分以内にアクセス出来るために、松本広域連合9市町村の中で、庁舎からインターチェンジまで一番遠い当村としては、今回の長野県が示した松本糸魚川連絡道路のルート案の長野道から分岐する豊科北IC（仮称）から国道19号線にアクセス出来る様にしていただきたい。 通院では一番の池田町の安曇病院への道路と通勤、通学でも利便性の多い、県道の上生坂信濃松川停車場線のトンネル化により、冬季間の安全な通行確保や大雨による通行止めを解消していただきたい。	○期待する効果や評価等 村の経済の活性化のため、就労の場の確保等とともに、松本市方面への通勤、通院に時間短縮が図れる。	○その他 二つの代表事例が達成できれば、当村のほとんどの地域から高速交通網まで30分以内でアクセスできることになり、人口流失の歯止め、若者の定住化につながっていくと考えられる。
	通院では一番の池田町の安曇病院への道路と通勤、通学でも利便性の多い、県道の上生坂信濃松川停車場線のトンネル化により、冬季間の安全な通行確保や大雨による通行止めを解消していただきたい。	通院、通勤、通学の利用度の高い県道の安全な通行確保と冬季間の凍結等による交通事故の減少が考えられる。また、松本糸魚川連絡道路へのアクセスが容易になり、交流事業、体験観光などの多面化が図れる。	